

調査書から見えてきた課題、問題点

1 クリーンピア射水ごみの現状

- (1) 分別されていない（できない）プラスチックごみが約 20%
- (2) 事業所から排出されるごみ（一般廃棄物）は分別されていない
- (3) プラスチック製容器包装が約 70%、そのうちプラスチック製の袋が約 25%
- (4) プラスチックごみの推計は、燃えるごみ 6,150t、燃えないごみ 475t

2 プラスチックごみ店頭回収等

- (1) スーパーでの店頭回収は積極的に行われている
- (2) 有価またはそれに近く無償以上になる品目が対象（経済性は必要）
- (3) プラスチックを使わない販売方法を工夫するが、消費者の理解が得られない、経済性がない等の理由で進まない

3 産業廃棄物

- (1) プラスチックごみは、建設業や製造業から多く発生している約 68%
- (2) ごみの形状はフィルムが多く、素材はポリエチレンが多い
- (3) マテリアルリサイクルには単一の素材であることなどの条件がある
- (4) 多量排出事業者アンケートでは、多くの事業者がプラスチックごみの発生量や処理方法を把握していない

4 六渡寺海岸漂着ごみ

- (1) 海岸漂着ごみの量は、天候に左右される（台風や積雪）
- (2) 他の海岸漂着ごみと比較して人工物が多い
- (3) 実際には庄川、小矢部川の上流からポイ捨て等の不法投棄物が漂着している
- (4) 製品別では、プラ製容器包装が約 57%、プラスチックの破片や製品約 35%
- (5) 近年はマイクロプラスチックが見受けられる

5 他市との比較

- (1) 一人当たりのごみ排出量が多い
- (2) 市民が分別したプラスチック資源物は少ない、減少傾向（一人当たり）
- (3) 資源物の収集回数が多いほど、収集量が多くなる

6 先進事例

- (1) 分解性プラスチック等の新技術は実用段階にはまだ時間がかかる
- (2) 問題解決に向け、自治体と事業者が協力している
- (3) マイボトル運動などの意識啓発の施策を実施している
- (4) CO₂削減のため、バイオマスプラスチック製品の導入が進んできている

7 その他

- (1) 新型コロナウイルス感染予防のため、使い捨てプラスチック容器の利用が増加する